

# 福祉の学習手引き

2022年度版



み  
ん  
な  
で



つ  
な  
が  
る



苫小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター

後援 苫小牧市

苫小牧市教育委員会

# はじめに

現在、学校では「総合的な学習の時間」などを通して、子どもたちが学習に対して主体的・創造的に取り組む姿勢や命の大切さなどの生きる力の育成が期待され、また「コミュニティ・スクール」で掲げている地域とともにある学校づくりの推進が図られています。

地域では、人と人、人と社会がつながり、様々な課題を「我が事」としてとらえ、地域で暮らす一人ひとりが役割をもち、お互いに支え合うことができるネットワークづくりが求められています。

苫小牧市社会福祉協議会では、次代を担う子ども達が新たな気づきや豊かな感性と人間性を持って、多様な他者との共生社会を築いていく力や共に生きる力を育めるように、また先生方が総合的な学習（福祉の学習）を企画する上で役立てていただけるように「福祉の学習の手引き」を作成させていただきました。

ぜひ、ご活用いただければ幸いです。

## 1. 『ふくし（福祉）』って何だろう？

「福祉」とは「**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ」とも言われており、福祉という文字は、「福」と「祉」のどちらにも「しあわせ」という意味があります。つまり、みんなの幸せということなのです。

どのようなことを幸せだと感じるのかは、一人ひとり違います。そのため、すべての人が幸せに感じるためには、他人の幸せを尊重し、一緒に支え合いながら暮らしていくことが大切です。



## 2. 福祉の学習のイメージ

### 1. 種まき（課題の設定）



「福祉って何だろう？」というような疑問など、子どもたちの自由な発想から課題を見つける。



### 2. 成長する（主体的に調べ学習をする）



課題に応じて、本やインターネットで調べたり、また体験学習を通して感じたことなどをまとめる。



### 3. 葉をつける （調べたものを共有し、興味や関心を深める）



これまでの学習の振り返りや情報の整理・分析を行い、疑問点や課題の解決を図る。



### 4. 実る（行動・さらなる取組）



これまでの学習の全体をまとめ、多くの方に知ってもらい、そこで見つけた新しい課題を1の『種まき』につなげていく。

## 【福祉の学習の目的】

障がいの有無や年齢に関わらず、すべての人が普段の生活を普通に暮らすことが幸せにつながっていくのではないのでしょうか。

そのために福祉に対して感心を持ってもらい、今の自分たちに何ができるのかを考える事の大切さを知ってもらうことが、この学習の目的として実施します。

## 実施の流れ

「申込書（兼事前打合せシート）」に学校名・担当教諭名・連絡先・対象学年・参加予定人数・授業の目的・事前打合せ日時・確認事項などを記入していただき、FAX または下記のメールアドレスにて送付して下さい。

内容は事例などを参考にしながら、希望する授業内容が決まりましたらご連絡いただき、担当より打合せ日程を確認し、お伺いして授業内容・授業時間を決定していきます。

プログラムを見ても内容が決まらない場合は、お気軽にご連絡下さい。

- ① 「申込書（兼打合せシート）」に、必要事項を記入の上、FAX またはメールにて返信ください。受理しだい、事前打合せの日程を、ご相談の上決定します。（学習予定日の1か月前までをめぐりに、申し込み下さい。）
- ② 事前打合せの実施。  
学習に対しての目標、学習の実施場所など確認させていただきます。
- ③ 講師の日程調整・道具の調整  
講師の日程が確保できるか、必要な道具が確保できるのかななどを調整し、必要があればお伺いし最終打合せをします。
- ④ プログラムの実施
- ⑤ プログラム完了の報告（プログラム参加者の感想などを実施後にいただければ、協力者およびスタッフで今後の参考にさせていただきます。）

### ◆お問い合わせ先

社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 ボランティアセンター  
〒053-0021 苫小牧市若草町3丁目3番8号 苫小牧市民活動センター  
電話 0144-84-6481 FAX 0144-34-8141  
Mail [volucen@tomakomai-shakyo.or.jp](mailto:volucen@tomakomai-shakyo.or.jp) 月～金 AM9:00～PM5:00



福祉の学習申込書 (兼事前打合せシート)

年 月 日 ( )

学校名	学校		担当の先生	先生
連絡先	TEL :	FAX :	メール :	
対象者	全校生徒 学 年 ( 年生)	クラス数	人数(内訳)	

○希望するプログラム

--

○授業の目的 ((例) 先生たちが考える授業の狙い、子どもたちに伝えてほしい内容)

--

○確認事項

<p>実施希望日時 ( 予定・決定・調整中 )</p> <p>※講師との日程調整が必要となりますので、複数の日数の提示を願います。</p> <p>①日 時： 年 月 日 ( ) : ~ :</p> <p>②日 時： 年 月 日 ( ) : ~ :</p> <p>③日 時： 年 月 日 ( ) : ~ :</p> <p>会 場： 学校 (教室・体育館・その他 ( ))</p> <p>謝 金： 有 ・ 無</p> <p>駐車場： 有 ・ 無</p> <p>車椅子トイレ： 有 ・ 無</p> <p>備 考：</p>
---

# 活動プログラム①

## 地域福祉

テーマ	内 容	学習素材	講 師
①ふくして何？	<p>「<u>ふ</u>だんの<u>く</u>らしの<u>し</u>あわせ」ってどういうこと？ その人らしい生き方って？ 人権ってなに？ 苫小牧市について「つながり」「支え合い」などの視点から深める。</p>	<p>・福祉講話 その人らしい生き方、人権など幅広く福祉の視点から知識を深める。</p>	<p>・社協専門職</p> 
<p>②あいサポートキッズ</p> 	<p>さまざまな障がいの特性や障がいのある方への必要な配慮を理解することで、お互いに「支え合う」「つながり」などの視点が生まれる。</p>	<p>・講話 「障がい」って何だろう？「あいサポート」って何？などを説明し、知識を深める。</p> 	<p>・苫小牧市障がい福祉課</p>
③ボランティアを学ぼう！	<p>ボランティアってどんなこと？ 市内のボランティア活動の内容や、なぜ活動されているかなど、「つながり」「支え合い」の視点から気づく。</p>	<p>・ボランティア講話 ボランティアについて。苫小牧市で活動しているボランティアについて。</p> <p>・ボランティア体験教室 苫小牧市のボランティア団体の協力を得て、1人でできる活動、仲間とできる活動を紹介。</p>	<p>・ボランティアセンター職員（社協）</p> <p>・ボランティア団体</p>

## 活動プログラム②

### 高齢者福祉

#### 【目的】

年齢を重ねていくことで変化する身体や心の変化について知ることにより、これからどのように過ごし、どのような支えがあると良いのかを考えよう。

テーマ	内容	学習素材	講師
①老いるとは？	年齢を重ねていくことで変化する身体や心の変化について知ることにより、これからどのように過ごし、どのような支えがあると良いのかを考えよう。	• 疑似体験 日常生活を疑似体験することにより、加齢による身体的な変化を知る。	• 社協職員 
		• 介護講話 高齢者の気持ち、介護方法、コミュニケーションのとり方を学ぶ。	• 介護専門職 (社協ほか)
②高齢者の通いの場 	みんなで集まり、話をしたり、体操をしたりして、周りとの絆をつくるサロンについて学ぶ。	• 講話 「ふれあいサロン」について	• 社協地域福祉課職員



# 高齢者福祉プログラム

## (2時限(90分)授業)事例①

※時間配分については、講師や学校授業の都合により、90分以内での変更は可能です。

講話  
高齢者の身体的特徴  
(15分)



年齢を重ねることによる体の機能の変化などをテキストに沿ってお話します。

疑似体験  
(70分)



疑似体験の注意事項と装着の仕方について説明をします。  
※正しく装着することが、体験には必要です。



まとめ・質問  
(5分)

高齢者疑似体験セットを装着し、廊下の移動や階段の昇降をしてもらい、高齢者の身体的機能を理解し、介護方法や声かけなどのコミュニケーションのとり方を学習します。

※時間はあくまで目安となっております。内容により若干時間の前後がありますので、ご注意ください。

## 活動プログラム③

### 肢体不自由

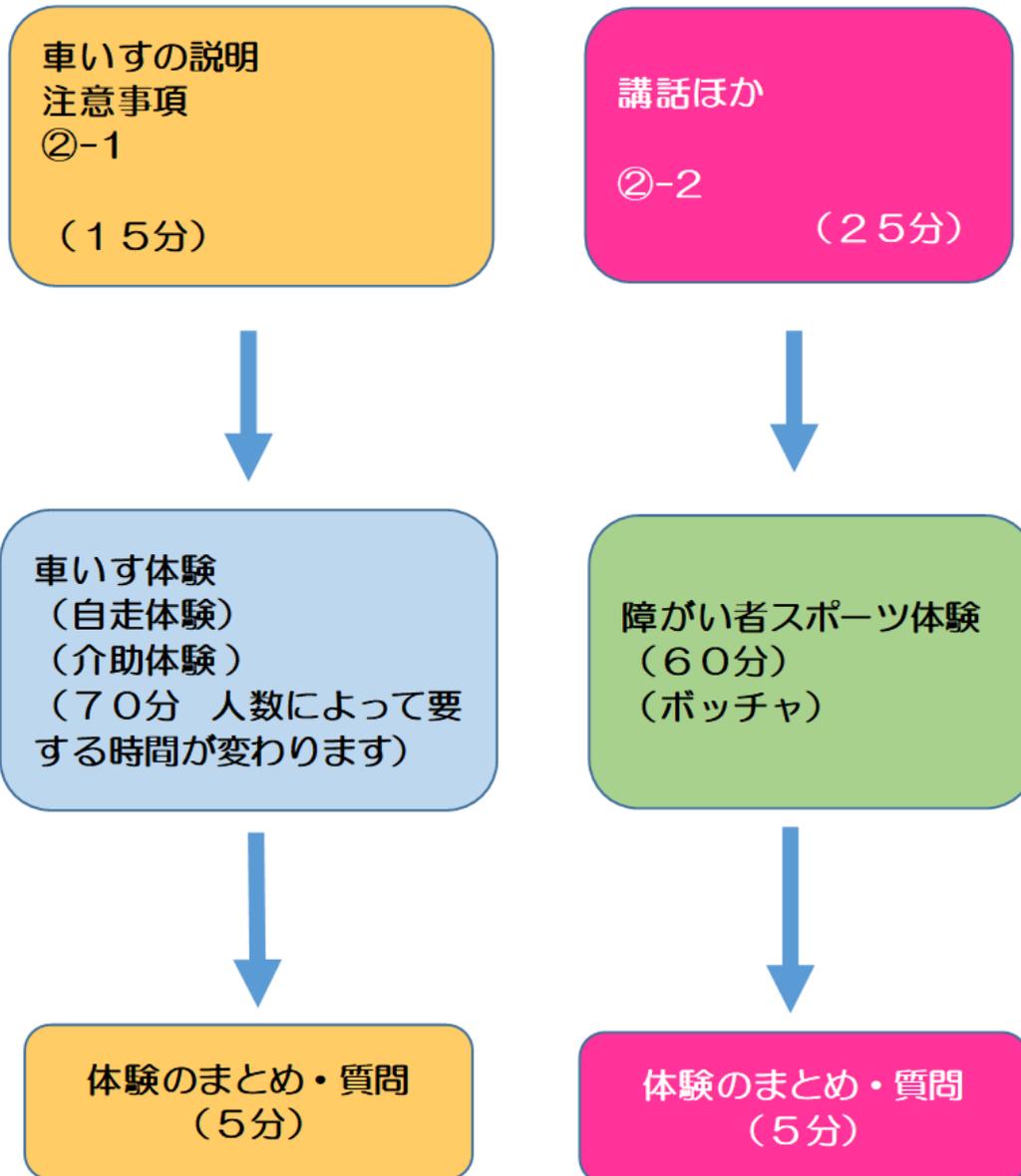
テーマ	内容	学習素材	講師
①肢体不自由とは？	障がいのある方のお話を聞きます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話 自身の暮らしやその思いを知ることで「生活に必要で欠かせない大事な身体の一部」であることを理解します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧市スポーツ都市推進課ほか</li> </ul>
②暮らしや生きがいについて	障がいの有無に関わらず、自分でできることがたくさんあります。 体験を通して日常生活の中でどのような工夫があるとよいのかを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車イス体験 車イスがどのような構造となっているのか。操作方法や注意点・留意点を学び、実際に操作し自走や介助をしながら移動してみる。 また、段差や障害物、トイレやエレベーターなどのバリアフリーについて学びます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協職員</li> </ul>  
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツ体験 「ボッチャ体験」を通じて障がいの有無に関係なく、実行するための技術力・集中力が求められスポーツであることを学びます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧市スポーツ都市推進課</li> </ul> 
③ともに生きる	自分でできるちょっとしたお手伝いや配慮を考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活をアシストする機器の紹介 どのような種類があり、どのように使うのかを紹介し、症状や身体の可動域の範囲によってアシストする用途を学びます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社マルベリーさわやかセンター 苫小牧</li> </ul> 

※状況により講話の講師が派遣できない場合もございますので、ご相談ください。

# 肢体不自由プログラム（2時限（90分）授業）

## 事例②

※時間の配分は、講師や学校授業の都合により、90分以内での変更は可能です。



車いす体験・ポッチャ体験については、準備のため開始前15分ぐらい時間をいただきます。ご了承ください。

## 車イス体験（講話・体験）90分

### 【目的】

車イス体験を通し、不便さや危険を知ること、日常生活の中で自分たちがどのような工夫があるとよいのかを考えていきます。

車イス体験についての説明（車イスの構造など）、注意事項をお話しします。



車イスを実際に自分で操作します。



2人1組で介助する体験をし、車イスに乗っている側から見た景色や坂の上り下りなどを体験し、車イスを介助する側はどのように声をかけ、乗っている方を不安にさせないように操作することが必要か、体験を通して学びます。



車イス体験実施する際は、開始前15分ほど準備時間をいただきます。

# 小学校 車イス体験 体育館(90分)実例①

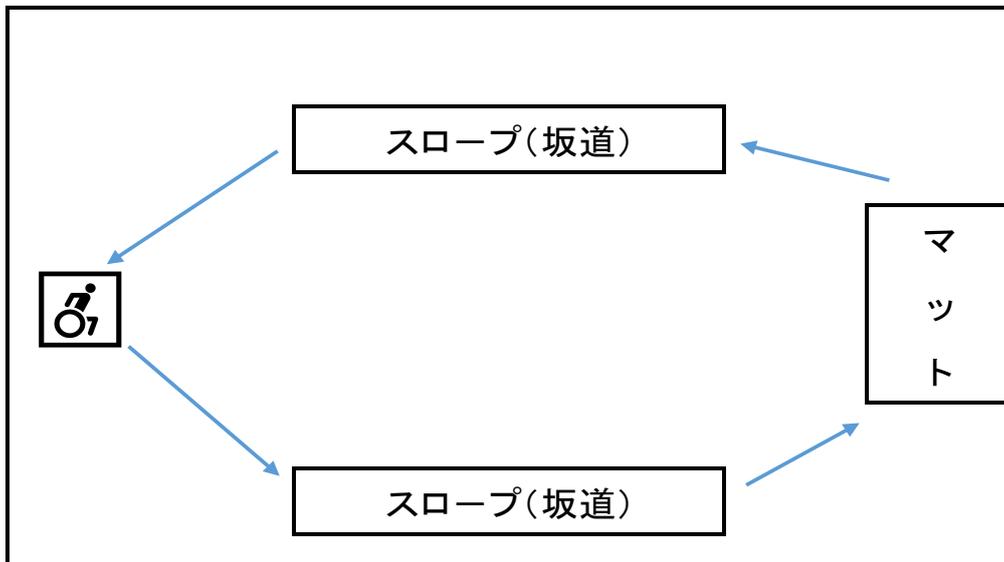
2クラス合同で実施する場合、自走体験と介助体験に分かれて交代で行います。

講 師(ワイヤレスマイク1本)

生 徒 2クラス70名



車イス自走体験



車イス介助(2人1組)

◎学校で準備(マイク1本・マット3枚・三角コーン10本)

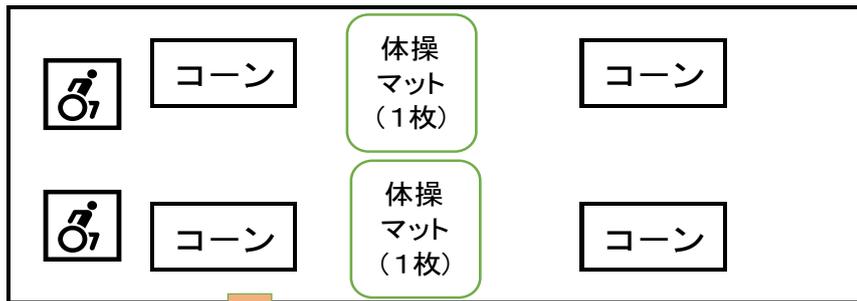
## 小学校 車イス体験 体育館(90分)実例②

2クラスを3グループに分かれて(自走・介助・福祉用具)交代で行います。

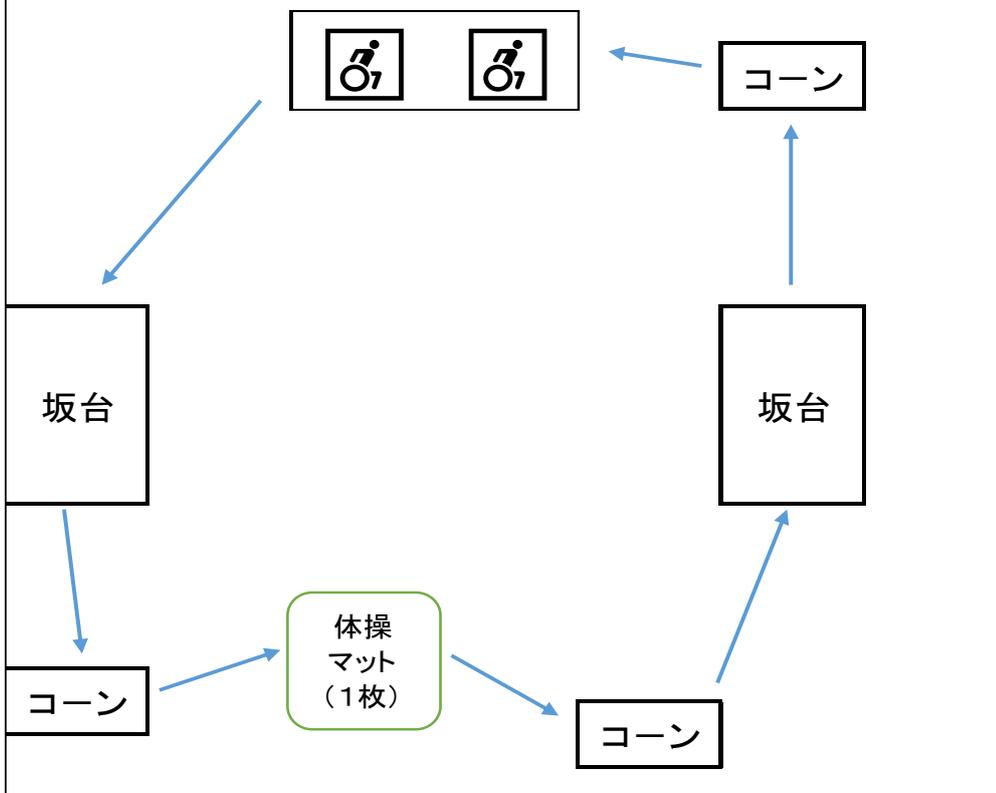
講 師(ワイヤレスマイク1本)

生徒2クラス70名

① 自走体験



② 介助体験



③ マルベリー (福祉用具展示)

※ 福祉用具については、民間会社の都合によります。

※ 体験は、1クラスごとに分かれる(講話20分・各体験20分×3ブース)

## 肢体不自由者講話・ボッチャ体験 90分

### 【目的】

ボッチャは1984年にパラリンピックの正式種目として行われています。

「ボッチャ体験」を通じて障がいの有無に関係なく、実行するための技術力・集中力が求められスポーツであることを学びます。



昨年度は東京オリンピックや北京オリンピックが開催され、障がい者のスポーツ（パラスポーツ）についてお話をしました。

今年度の講話の講師については現在調整中ですが、昨年度と同様に20分程度の講話の後、ボッチャを65分体験していただきます。



ボッチャは会場の広さにもよりますが、最大2組まで用意できますので、多少人数が多くても対応は可能です。

ボッチャ体験は、コート設営のため15分ぐらいの準備時間が必要です。

## 肢体不自由講話30分・ボッチャ60分体育館(90分)実例

ボッチャは3対3の6人制で行うのでチーム分けをお願いします。

講 師(ワイヤレスマイク・机2)

スクリーン

プロジェクター

生徒 2クラス70名

ボッチャ①

ボッチャ②

※ ボッチャは、35人×2クラスに分かれる(60分)

## 活動プログラム④

視覚障がい

テーマ	内容	学習素材	講師
①視覚障がいとは？	障がいのある方の講話やアイマスク・点字などの体験を通して、視覚障がいについて理解を深めます。	・視覚障がいの方の講話 「見えない」という状況にて、日常生活の中でどのような工夫をして暮らしているのかを学びます。	・苫小牧視覚障害者福祉協会 ・北海道盲導犬協会
②暮らしや生きがいについて	視覚障がいにより、できないことに焦点をあてず、できることに焦点を置きます。	・アイマスク体験 実際にアイマスクを装着しながら歩き、失ってしまった情報ではなく、視覚以外の情報を活用する体験を行います。	・社協職員 
		・点字学習について 視覚障がいのある方に対して、点字を使って単語や文書を表現することがあります。 体験を通して、点の打ち方や打つ時のルールなど初歩的な技術を学びます。	・苫小牧市点訳赤十字奉仕団 
③ともに生きる	自分でできるちょっとしたお手伝いや配慮を考えていきます。	 	

# 視覚障がいプログラム（2時限（90分）授業）

## 事例 ③

※時間の配分は、講師や学校の授業の都合により、90分以内での内容変更は可能です。

体験に入る前に、視覚障がい者についての説明  
③-1-1 （20分）

アイマスク体験  
（65分）  
折り紙・紙コップ・廊下（介助）体験  
③-1-2

点字学習体験  
（45分）

③-2

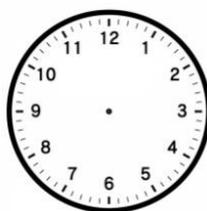
点字学習は45分（1時限）の授業となっています。

各体験のまとめ・感想（5分）

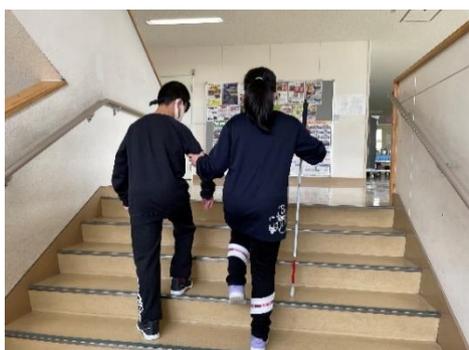
## アイマスク体験（紙コップ・折り紙・廊下・階段） 90分

### 【目的】

アイマスク体験を通し、視覚以外の感覚である聴覚や嗅覚などのいろいろな感覚を使って生活していることを知り、日常生活の中でできることがたくさんあることも知りながら、自分たちがどのような工夫があるとよいのかを考えていきます。



アイマスクをしている方は、クロックポジション（アナログ時計の文字盤を基準にして物の置いている場所）を判断しています。  
例）何時の方向に〇〇がある。



アイマスクをしながら、折り紙を折ります。ある程度折ることはでき、何もできないわけではありません。



2人1組のペアで、一人がアイマスクを装着しながら廊下や階段の昇降の体験をしていただき、もう一人がアイマスクをしている方の介助をします。

障がいにより活動や参加の制約があるから、かわいそうではなく、相手の立場に立って、どのように工夫をすれば生活ができるのかを考えながら行動することが大切です。

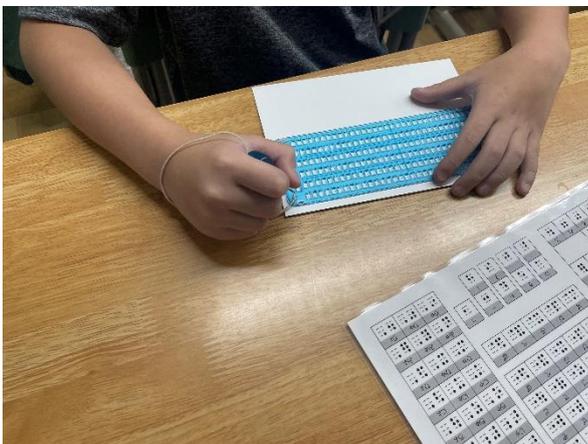
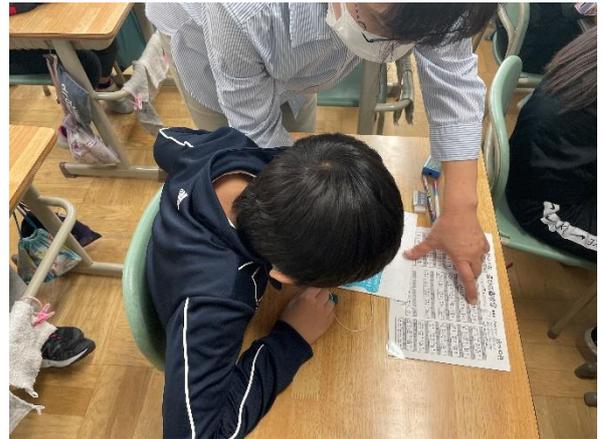
## 点字体験（講師：加藤 佳代） 45分

### 【内 容】

苫小牧市点訳赤十奉仕団の方に講師をしていただき、45分の体験を行います。

主な内容として昨年度は点字の本（ハリーポッターの小説）を生徒に見てもらい、その後、実際に点字器を使用して自分の名前や好きな物、簡単な文書を打っていただきました。

日程の調整があります（月～木曜日の3・4時限目のみ対応可能）ので、あらかじめ実施する予定日を2～3日あげてください。



## 盲導犬講話（講話・体験） 90分

### 【内 容】

昨年度は、北海道盲導犬協会（札幌市）より講師として来ていただき、講話・代表者が体験を行いました。内容として前半の45分、講師が盲導犬についての講話をし、後半に代表の方がアイマスクを装着して、盲導犬の体験をしました。

### （注意事項）

このプログラムは、北海道保健福祉部福祉局地域福祉課福祉人材グループのご協力をいただき、無料で実施しています。

そのため、実施日から2か月前までに事前の予約が必要となっています。

事前の打ち合わせ等については依頼者（学校）と道の福祉人材グループで行っていただくことになります。また、講習会終了後、実施報告書及びアンケート（教職員及び児童生徒）の提出が必要となります。ご希望があれば人材グループへ、ご連絡しますのでよろしくお願いいたします。



## 活動プログラム⑤

### 聴覚障がい

テーマ	内 容	学習素材	講 師
①聴覚障がいとは？	聴覚障がいの方とのコミュニケーションは障がいの種類、程度、障害が生じた時期、教育歴など一人ひとり異なるため、多様なコミュニケーションが必要となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講話 聴覚障がいは、見た目では分かりにくい障がいの一つです。 実際に今までどのように過ごしてきたのか。また、不便さを感じ、どのようなお手伝いがあると良いのかを講話を通して考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫小牧市障がい福祉課</li> </ul>
②暮らしや生きがいについて	障がいがあっても、日常生活において困らないように工夫や努力をしてできることを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話体験 手話でのあいさつや名前など簡単な手話やジェスチャーの方法を学びます。</li> </ul>	
③ともに生きる	自分でできるちょっとしたお手伝いや配慮を考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話以外のコミュニケーションについて 筆談、口話による方法や生活をアシストする種々の機器を学びます。</li> </ul>	



# 聴覚障がいプログラム（2時限（90分）授業）

## 事例 ④

※時間の配分は、講師や学校の授業の都合により、90分以内での内容変更は可能です。

日頃の実生活について、  
聴覚障がい者の方の講話  
(40分)



質 問 (5分)



手話体験  
手話以外のコミュニケーション  
(45分)

## 聴覚障がい者講話（講話・手話体験） 90分

### 【目的】

当事者の日常生活の中で、たくさんできることがあることを知りながら、難しいところは、どのような工夫があるとよいのかを相手の立場に立って考えます。



基本は、90分授業となります。前半の45分は講話(質問を含む)を行います。後半は学年によって異なりますが、ジェスチャークイズや実際に手話を使ったあいさつなどを学び、簡単なコミュニケーションの取り方を体験します。

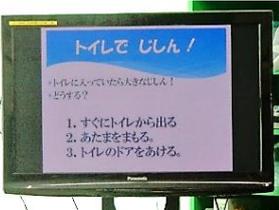
授業対応の予定として、火～金曜日の3・4時限目であれば対応可能です。



## 活動プログラム⑥

災害支援  
ボランティア



テーマ	内 容	学習素材	講 師
①自分のいのちは自分で守る	危険を回避して自分や大切な家族のいのちを守るために必要な知識を学びます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害講話 必要な知識や主体的な行動へ導いていくプログラム（防災〇×クイズ）です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協職員</li> </ul>
②できていますか？日頃のそなえ  	災害が起きたらどんなことに困るのか。そのためには、どのような備えがあると良いのかを学びます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険予知トレーニング 災害時に予想される危険な状況をシミュレーションし、どのような行動をとるべきかを考えます。</li> <li>日頃のそなえ 持ち出し袋って何？本当に必要なものって何？家の中の安全とは？被害を最小限に抑えるために必要な知識を学ぶ。</li> </ul>	 
③私たちにできること ～大切なものを守るために  	日常の中で「幸せで楽しい」とは？災害が起こったら、一変してしまう。 そこからどのように生きるかを考えます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の中で幸せとはどういうことか？ 大災害により一変した状況を自分のこととして想像し、状況を受け止め、そこからどのように生きるべきかを考えます。</li> </ul>	

# 災害支援ボランティアプログラム

## (1時限(45分)授業)事例⑤

※講師や学校授業の都合により、時間配分の変更については、調整します。

防災講話(40分)

- ・防災〇×クイズ
- ・危険予知トレーニング
- ・日ごろの備え
- ・私たちができることの中から選択します。

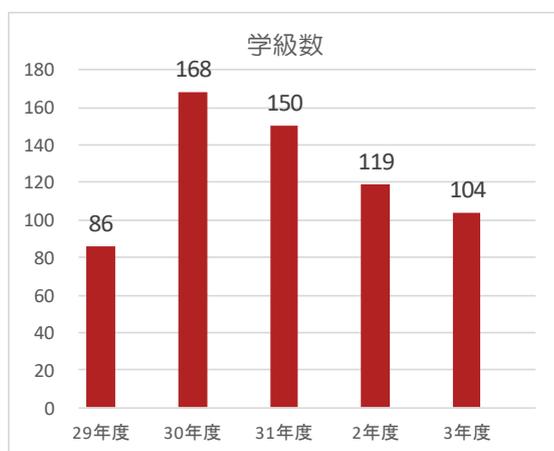
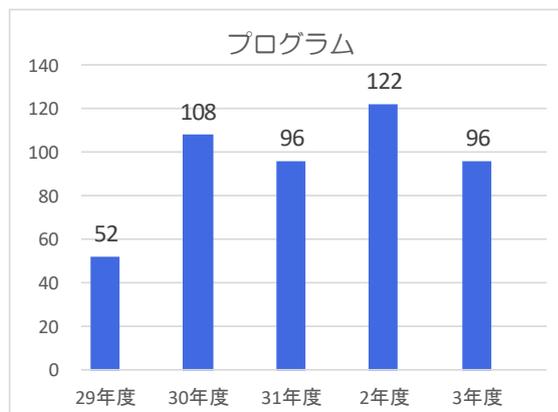
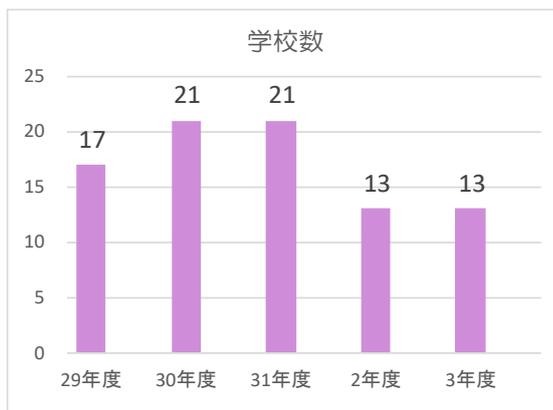
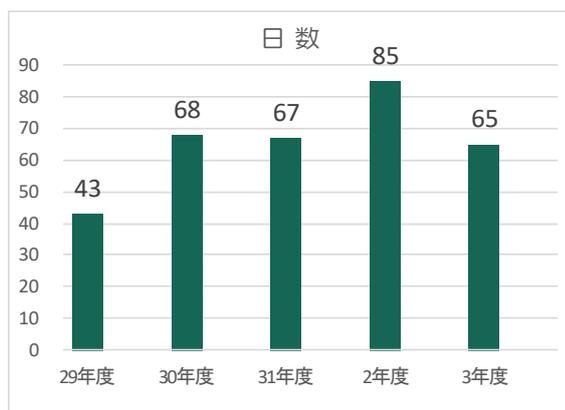


質 問 (5分)

※講座の内容により学校側で準備していただく物(プロジェクターなど)があります。その際はあらかじめご相談させていただきますのでお願いいたします。

## 福祉の学習 令和3年度実施報告

	日数	学校数	人数	プログラム	学級数
29年度	43	17	2,532	52	86
30年度	68	21	5,329	108	168
31年度	67	21	4,513	96	150
2年度	85	13	4,014	122	119
3年度	65	13	2,760	96	104
増減	▲ 20	0	▲ 1,254	▲ 26	▲ 15



プログラム内容	回数
高齢者疑似体験	9
肢体不自由講話	中止
ポッチャ体験	19
視覚障がい者講話	中止
アイマスク体験	15
点字学習	17
聴覚障がい者手話体験	22
防災講話	
盲導犬講話	1
車いす体験	13
合計	96

# ボランティアに関すること

## ●ボランティアに関する相談受付

ボランティアを必要とする方と、協力者をつなぐお手伝いをしています。

## ●雪かきボランティア

## ●災害ボランティア

## ●各種ボランティア保険の受付

## ●ボランティアに関する各講座の開催

## ●介護支援いきいきポイント事業

シニアの生きがいづくりに

## ●福祉の学習などの推進

## ●ボランティアスクール事業

小学生・中学校・高校生を対象に学習や体験を通して、青少年のボランティア活動への理解と関心を深めていきます。

苦小牧駅

王子総合病院

苦小牧市社会福祉協議会  
(市民活動センター内)

警察署

市役所

社会福祉法人  
苦小牧市社会福祉協議会  
ボランティアセンター



住所：☎053-0021 苦小牧市若草町3丁目3番8号  
市民活動センター内

電話：(0144) 84-6481

Fax：(0144) 34-8141

